

◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 自然環境観察会

23A-26

代表者：代表理事 平井 一男

URL：<https://nature-garden-walk.jimdo.com/>

1. 活動が必要とされた状況

都市化により自然生態系が減少している大宮台地北部に、癒しの生物の回復を目的に、農地や庭の一隅に生態補償地（緑のオアシス）を設け、昆虫、クモ、鳥などの温存を目指し、保全活動と調査を行った。併せて地域の生物相を把握するため、加須の生態園と桶川の水田と休耕田で月例観察会を実施した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① 緑のオアシス：4月以降、上尾・桶川・久喜・宮代・加須・熊谷の空き地に、緑のオアシスを設け、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、テントウムシ、天敵生物、鳥類が集まるように保全と調査を行った。会員延べ40名参加
- ② 定例観察会：各地の緑のオアシス（4～12月）および県環境科学国際センター生態園（6～12月）で昆虫、クモ類、鳥類の観察を行った。同50名
- ③ 水田域の生物調査：6～9月桶川の水田と休耕田でイナゴと天敵を調査した。同20名
- ④ 環境教育：コロナ禍で中止になり開催できなかった。



左：夏の観察調査
（加須生態園）

中1：秋の調査
（加須昆虫園）

中2：春の草刈り・保全
桶川「緑のオアシス」

右：秋の保全管理
桶川「緑のオアシス」

3. 活動の成果

- ① 上尾と桶川の生態補償地（緑のオアシス）に寄主植物（ウマノズグサ、シロダモ、ユズ）および蜜源を植え、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハを定着させた。またタチヤナギ、ダイオウグミなどを植栽しテントウムシ、カマキリ類、クモ類を保全した。さらにプラム、ウメなどにメジロ、ジョウビタキ、エナガなども飛来した。
- ② 2020年、都市（上尾）と農村（桶川）の緑のオアシスの観察で、都市では、ジャコウアゲハ、キタキチョウ、ナミテントウなど87種、農村ではフクラスズメ（異常多発）、ジャコウアゲハ、キタテハなど91種が観察された。
- ③ 桶川「緑のオアシス」近くの休耕田のジュズダマ、ヒエなどにイナゴが多発した。
- ④ 成果は研究会誌（寄せ蛾記、アグロ虫）、関東昆虫研究会、NPO 広報誌に公表した。

4. 今後に残された課題

- ・生態補償地の植栽管理、寄主植物、蜜源植物の充実を図り生物多様性を安定させる。
- ・休耕田におけるイナゴの現地保存法に関する調査を継続する。・休耕田の借上げ契約。
- ・生態園と生態補償地、水田の生物相の調査、データベース化継続、公開を行う。